水共生学セミナー
～水・ヒト・生き物の営みが共生する石垣島を目指して～
タイムテーブル

水共生学プロジェクトでは、水をとりまく環境・ヒト・生き物が持続的に共生する社会の実現を目指し、研究を進めています。2023年2月に開催したワークショップ「石垣島をめぐる水共生学」に引き続き、今回は気候変動のもとで水環境が変化する石垣島に焦点をあて、農業や観光などの産業や社会・文化、生物多様性に関する取り組みについてご紹介いたします。

16:10 ～ 17:25

開会挨拶

松川 英樹（石垣市農林水産商工部農政経済課 課長）

水共生学プロジェクトの紹介

荒谷 邦雄（九州大学・水共生学代表）

私たちが取り組んでいる水共生学プロジェクトについて、その背景や目的、石垣島での活動などをご紹介します。

話題提供

● サンゴ礁の自然とリゾート開発　～名蔵湾について考える～

菅 浩伸（九州大学）

石垣島周辺には日本最大のサンゴ礁が広がっています。沿岸に発達するサンゴ礁は人間活動の影響を大きく受ける地生態系です。サンゴ礁の自然を大切にしながら持続的な人間活動を続けていくには、どのようなことを考えれば良いのでしょうか？　石垣島名蔵湾の素晴らしいサンゴ礁環境を例に、陸と海のつながりについて考えましょう。

● 沖縄諸島の水環境知から学び合う試み　～東ティモールの現状と課題～

嶋田 奈穂子（総合地球環境学研究所）

沖縄諸島の井戸や湧水には必ず拝所があり、たとえその水が利用されなくなっても、聖地として大切に継承されています。同じ文化が沖縄から真南に4000km離れた東ティモールにも見られますが、紛争などの混乱で、その継承が危ぶまれています。両者を比較して学び合い、より良い水環境につなげることが出来ないかをみなさんと一緒に考えたいと思います。

● 陸と海のつながり

大澤 和敏（宇都宮大学）

沖縄では、貴重な生物資源、観光資源であるサンゴが危機的な状態にあります。その一因に、陸から大量の土が海へ流れ出てしまう赤土流出が問題となっています。陸域の農業のやり方を少し変えることで赤土流出が減り、海域のサンゴ礁生態系を救うきっかけになるということを、20年間の石垣島での研究成果を交えながら説明します。

● 熱研の未来への取組み
～農業の発展と環境保全が両立する資源循環システムの開発～

安西 俊彦（国際農林水産業研究センター）

農業は食料を生産するだけでなく、景観の維持や文化そして地域経済の根幹をなしています。石垣島の農業もまた、魅力ある島の重要な要素です。しかし、持続的な農業を行わなければ、環境だけでなく農業にも悪影響を与えてしまいます。そこで、農業生産性と環境保全が両立する技術の研究開発について、熱研の取り組みをご紹介します。

17:25 ～ 18:00

水共生学未来シナリオワークショップ報告

本セミナーの前に、石垣島の未来や現在の課題などについて話し合う「水共生学未来シナリオワークショップ」を実施しました。そのワークショップでは、高校生を含む約20名ほどの方々にお集まりいただき、4つのグループに分かれて、様々なアイデアをだしていただきました。その内容の一部を報告します。

質疑応答

閉会挨拶

大前 英（国際農林水産業研究センター 熱帯・島嶼研究拠点　所長）

※敬称略